

子どもとともに育む夢

おしゃべりねずみ



絵本の読み聞かせ

城北小学校の放課後、図書室で何かを読んでいる声が聞こえてきた。中に入ってみると、本の読み聞かせに生き生きとした瞳で絵本を見つめ、耳を澄ましている子どもたちの姿が目に見えび込んできた。そして、読み聞かせが終わった途端、子どもたちの顔はいっせいに笑顔でいっぱいになった。



子どもたちは本に夢中

子どもたちに絵本の読み聞かせをしているのは、「おしゃべりねずみ」(会長 花原孝子さん・田島)の会員。城北地区の小学校をはじめ、保育所や公民館で活動する絵本の読み聞かせグループだ。

「小学校では月に二回、保育所と公民館では一回それぞれの場合に出向いて、読み聞かせをしています」と楽しそうに話してくれたのは、この会の世話人である福井恵子さん(青葉町三丁目)。

「おしゃべりねずみ」は、以前から家庭文庫で近所の子どもたちに読み聞かせをしていた人の呼びかけで、平成四年に結成。はじめは三人程度だった会員も、今では十七名。年齢層も幅広く、三十代から八十年代の地域住民によってボランティア活動が続けられている。



子どもたちに伝えたい

「初めて読み聞かせをした時は、たくさんの子どもの心がドキドキして、その時の様子はあまり覚えていません」と福井さん。

手さぐりの状態で始めた読み聞かせであったが、市民図書館の司書に、絵本の持ち方や、本の選び方などを教えてもらいながら経験を積んでいった。また、平成九年度から市民図書館が行なっている「絵本の読み聞かせ講座」などにも進んで参加し、子どもたちに少しでも本のすばらしさを伝えようと研修も重ねていった。

今では、会員が本を読み始めると、すぐに子どもたちが本の世界に引き込まれるところは、さすがだ。



世話人の福井さん



膨らむ夢

「子どもたちが『おもしろかったよ』と言ってくれた時に、今日もやってよかったなあと感じます。その子どもたちの笑顔が、私たちが続けられる原動力になっているのでしようね」と福井さんは微笑みながら語った。

会員たちは、地域の子どもたちに夢を与え続けると同時に、自分たちの夢も膨らませてゆく。子どもたちがやがて大きくなり、一緒に活動してくれる日を夢見る福井さんたちは、これからもずっと本の読み聞かせを続けていく。